

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本理念として、地域に開かれた施設となるよう取り組み、質の確保をめざしている。	○ 積極的に地域活動に参加し、地域の一住民となつて行けるよう、又地域のニーズを引き出し、支援していくことに努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス、勉強会及び日常業務を通じて理念を共有具体化できるよう管理者及び苑長と職員間で意見を出し合っている。また、その思いを基にスタッフ全員で標語を考え掲示している。	○ 関わりや具体的なケアが理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会及び面会時に、利用者の行事や日常生活の中で地域とのふれあいを知ってもらうようにしている。	○ 運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を推進している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やいきつけの店、散髪屋などで、畑仕事を教えて頂いたり店員さんと顔なじみになる等交流を深めている。	○ 気軽に立ち寄ってもらえるように付き合いを発展していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々を通じての行事（花見、七夕まつり、もちつき等）や他地域小学校の祭り参加や併設施設に招いての交流など積極的に交流することに努めている。	○ 小中学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流を深め、自治会・老人会への参加を進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みは行っている。	○	事業所として、高齢者の暮らしに役立つことを話し合い取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を基本に、次の課題となることは反省しながら良い事は活かしていけるように取り組んでいる。	○	ホームの理念一つ一つの意味を忘れないように定期的に行っている勉強会などで確認して行きたいと思う。皆が方向性を見失わないように取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの生活や暮らしぶりをスライドやビデオで放映する事で、より身近に感じてもらい、より率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。また、これまでの評価結果を踏まえ現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。	○	意見が出やすいような雰囲気作りに努め、いただいた意見を真摯に受け止めサービス向上に活かして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会等の開催やケースの相談等連携は適宜行われている。	○	常に連携をとり地域のニーズを知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会や、文献などで学習している。	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置している。委員を中心に全職員が学ぶ機会として勉強会で例を挙げて検討している。	○	虐待について具体的に理解し防止するようになっていく。又、職員がストレスを溜めないような様々な環境作りに努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づいて説明を行い、家族や本人に理解してもらえるよう努めている。	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方に入ってもらい会話の中で意見が言えるよう努めている。また、職員一人ひとりが何でも言える雰囲気作りや会話ができる様心がけている。	○	苦情や不満を利用者がぶつけられるように今まで以上に会話ができる時間、機会を設けていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に利用者の近況報告、健康状態について話す。また、利用者のこづかい帳を閲覧してもらい、金銭の使い道について報告する。疎遠になりがちな家族に関しては手紙と写真を送る。	○	家族との信頼関係を深くできる様引き続き近況を報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族茶話会などを通して何でも言ってもらえる様努めている。また、意見があれば苑長を含め職員間で話し合い反映できる様にしている。	○	家族とのより良い関係作りを目指しコミュニケーションを通じて意見や希望などを感じ取ることができる様にしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。	○	今後も積極的に意見交換を行い運営に反映させて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員がその都度、状況の変化に応じ、役職者の調整により柔軟な対応を講じている。	○	利用者の求めるものを必要な時に柔軟な対応ができるよう調整して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	引継ぎの期間を充分に取るようにしていきたい。マイナス面ばかりでなく「新しい風」が入るととらえ新鮮な気付きもあり利用者が望むものに一歩づつ近づいていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。その内容は勉強会で報告され報告書として全員が閲覧できるようにしている。また、書籍の貸し出しを行い自己学習に役立てている。	○	資格取得を目指す職員には勤務体制への配慮も必要である。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ったりなど行き詰らない様に配慮している。	○	利用者から受ける喜びや感動、感激を共有し、働きやすい環境づくりを心がけていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1回勉強会を行っている。テーマごとに各自、自己学習しその報告、職員間での共有を図る。またそこで得たものを実際にどうケアに活かすかまで掘り下げて考え発表する事を目標としている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるようにしていきたい。勉強会、研修などは今行っているケアの確認、気付きなどにもつながり前向きに取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。	○ 初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が思っていること（不安なこと・希望すること）を理解し具体化できるよう努めている。	○ 信頼関係を築いていけるよう家族の立場に立って考え受け止めて行けるよう努力していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要とする支援を法人全体で対応している。	○ 緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今回やむを得ずすぐに利用となってしまったケースがあり、家族の協力を得て、職員がそばにつき添い安心感を持ってもらえる様努めた。本人からの言葉もひとつひとつ理解し、職員間で情報共有できる様に申し送り、記録類を徹底した。	○ 馴染んでもらうよう試行錯誤する事は職員自身、とても勉強になった。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な関係ではなく、常に利用者がどう思っているかを考え、敬う気持ちを大切にしている。共に過ごす家族として学び支えあう関係を築けるよう努める。	○ 信頼関係を築く為に会話や表情から利用者の想いを理解するよう努める。また、利用者を思いやる気持ちを大切に居心地の良い環境・雰囲気を作りに努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には支援されているという負い目を感じないよう配慮している。来訪時には昔話を聞いたり一緒に活動したりと本人と共に楽しめる様また、いつでも来れるという雰囲気を作っている。本人の言葉や動作に家族や他の利用者・職員が大喜び・大笑いする事が増えた。</p>	○	<p>一緒に本人を支えられる関係作りが出来る様努めたい。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>疎遠になりがちな家族に対しては手紙と一緒に写真も同封し、連絡が取りあえるよう努めている。入所以来ほとんど交流のなかった家族には大変喜ばれている。</p>	○	<p>家族へ向けた支援が家族や本人の負担とならないような配慮もしている。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>特養に妹さんが入所されている利用者が会いに行ったり茶話会に参加してもらったりしている。</p>	○	
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者の個性や相性、想いを理解することに努め、孤立やトラブルのないよう努めている。今回新しく入居された方を支えてくれた利用者がおり関わり合いの素晴らしさを教えてもらった。</p>	○	<p>利用者の個性を理解し合える関係作りができる様支援していく。お互いが支えあえる関係作りを目指して取り組む。</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>身体や経済的理由により止むを得ず退所となり特養に移行となった利用者に会いに行ったり、家族から話を聞いたりなど、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。</p>	○	<p>今後も秀光苑の馴染みの方、ゆかりのある方として関わりを続けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたことをスタッフ間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。入所間もない方で戸惑い不安があることを汲み取り会話の時間を長く取るようにしている。	○	その時々によって変化する希望や意向をスタッフ間で検証し、検討していきたい。ユニットの輪の中に溶け込みにくい利用者がいれば職員が間に入り自然に馴染んでいける雰囲気作りに努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。昔やっていた編み物を勧め職員と一緒にやる中で編み方も思い出し、少しずつではあるがやりがいをもちつつある。	○	その人が行きたい所ややりたい事を日常の暮らしの中から少しでも把握できるようにしたい。利用者・家族と共により良い関係を築く中で把握していききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の何気ない会話や行動に気を配り心身状態を把握しカンファレンスを行う。入所間もない方には細心の注意を払い状況把握に努めている。	○	ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。本人のペースに合わせた支援を心がけ時間をかけながらも「やりたい」ことを引き出していききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及びスタッフが集めた情報をもとに、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。	○	必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングを通して次の介護計画へとつなげている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の遂行状況・効果などを評価すると共に、見直しの必要がある時はカンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。	○	話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もある。今後、話す機会を持ちにくい家族にはその家族に応じた連絡方法を検討し機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をケース記録に詳しく記載しており、情報の共有や見直しにたいへん役立っている。	○	考察欄を活用して簡潔に見直しができる様にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かし利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院の回避。特に歯科受診は協力医療機関であり本人家族が納得できるまで治療、処置を行っている。	○	医療連携体制の充実により、内科、整形外科、歯科、精神科受診が可能である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出初式や学校の文化祭等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。	○	もっと多くの協力機関を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医を持たない利用者は本人・家族同意のもと法人施設医、協力医療機関等の医師としている。また入居前からのかかりつけ医での継続した医療も受ける支援をしている。定期受診で家族同行不可能な場合は職員が同行している。歯科訪問診療を定期的に受診し継続的な医療を支援している。かかりつけ医に検診結果など情報提供を行い負担になるような二重検査を防いだり治療の参考にしてもらっている。</p>	○	<p>今後も家族との連携を密にしたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科医の診療を受けている。職員の相談も気軽に行えている。</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>苑長・看護師兼務となっている。</p>	○	<p>看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチするスタッフの声に耳を傾けて行くこと。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した際、看護、介護サマリーの提出により利用者の情報を医療機関に伝え、生活が継続できるよう配慮している。また、入院中は状態に応じ面会を行っている。</p>	○	<p>医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>日々の関わりの中から本人及び家族の意向を早い段階から汲取り、施設が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合いできるだけここの生活が続けられるようスタッフ間で方針を共有している。</p>	○	<p>本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。重度化・終末期の支援について自己研鑽を積んで行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>施設が対応しうる最大の支援方法をスタッフ間で明らかにし、重度や終末期の利用者がより心地良く暮らして行けるよう努力している。</p>	○	<p>それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んでいく。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝える技術を最大限に発揮できるようにして行きたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えの希望があった場合、利用者本人と何度も話し合いを重ねると共に家族の意向も踏まえダメージを防ぐよう努めている。他のグループホームや施設からの入居に際しては生活状態、状況、サマリー等を参考にし、環境の変化を最小限度にとどめるよう努めている。</p>	○	<p>現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りとは何かを考えながらそれらやプライバシーを損ねることのないような関わりをし、職員同士もお互いに声を掛け合い意識の向上に努めている。また、記録等の書類は厳重に保管している。</p>	○	<p>人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしく生きて行けるような支援を心がけ実践していく。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の意見を尊重すると共に、自分の意見が言いづらい人や自己決定しづらい人の意思を汲み取れるよう努めている。</p>	○	<p>食えること、着ることはもちろん行きたいところ、したいこと等、自分で決める経験の積み重ねが毎日の生活となるようまた、普段していることが快適にでき、したいと思える様な環境づくりを支援を心がけ支援して行きたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴、食事、消灯の時間は一応設けているが、本人の希望、体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	○	<p>個々の意志に基づいて価値観の違いやその人らしさが実現されるよう心がけている、また具体的に支援して行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しても髪を伸ばしたい方にはその意向を受け止め、起床時や入浴後は、髪を束ねたりとおしゃれの気分を味わってもらっている。また、家族に相談し衣服の好みで持って来て頂いたりと工夫している。	○	本人の好みを尊重しながら、日常的に清潔な衣服で過ごせ、喜びやうれしさを共感できるよう工夫している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや、食事の好き嫌いも配慮しなるべく全員が美味しく食べる事のできる様なメニューを考えている。また食事一連の過程の中で、何らかの役割を持つように働きかけている。汗を流して収穫した、野菜や果物がテーブルを飾り箸が止まってしまうほどのおしゃべりなど楽しい団欒の一時となるような食事の雰囲気も大切にしている。	○	一人ひとりの好みや得意なこと、逆に苦手なことも検討し、みんなが一つになって働けるように調節する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に応じ一人ひとりが日常的に楽しみ満足できる様にかかわっている。	○	お茶の時間が自分好みの飲み物であったり、コーヒーや紅茶のお砂糖や、ミルク、コーヒーの濃さも自分で調節されている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居間もない利用者に関してもパットが必要か否かを検討しパターンをつかみ、その人に合った声掛けをしている。トイレで排泄が出来るようにタイミングや、本人の表情・仕草・行動から尿意のサインを見逃すことなくトイレで気持ちよく排泄できる様支援している。	○	自分が支援される立場であったらということを忘れないようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人のお風呂に入りたいという気持ちを尊重しいつでも対応している。家ではヘルパー介助でさっしが入浴できなかった利用者が入居後職員と会話を楽しみながらゆっくりと入ることによって入浴を心待ちするようになった。	○	「大丈夫ですか」の言葉掛けや背中を洗い流したり、洗髪の手助けを行ったりしながらも、ゆっくり湯船につかる時間も配慮している。又、入浴は、お互いのいいコミュニケーションの場ともなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	「眠れない」と訴えられる利用者には、よく話を聞き暖かい飲み物を勧め気持ちを落ち着かせてもらうなどの工夫をしている。	○ 眠れない本人の気持ちを配慮し安心して過ごせる様関わっていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活史から趣味などを知り得意分野での出番を何気なく作り出し役割を持ってもらえる様支援している。日めくりカレンダーや毎月の行事予定表作り詩などの書き写しなど役割として行ってもらう。日々の関わりでは、○○の漢字はどう書きますか？今何時ですか？と尋ねるなど形に残らない役割も見つけていくようにしている。	○ 法人の行事として行われる秋の紅葉祭に展示できるものとして、編み物に取り組んでいる。目標を持ってやりがいのある物作りができる様支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方にも出しやすいようにお札を用意したり、お札に触れなくても「おいくらですか」など店員とのやりとりができるような橋渡しを行っている。また、新聞広告で○○は高いですね、こちらのスーパーは安いです、、、など物価を通してお金を意識してもらう場面も作っている。	○ お金に対し関心のない方でも新聞広告や雑誌などで会話を楽しんでいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散髪はもちろんのこと本人の希望に応じて季節を感じてもらえるようにお弁当やおやつをもって戸外に出掛けている。	○ 外食や展示会への参加などで外出する楽しみをもっと増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や大泉緑地へ年2回ヒーリングガーデンナーへ出掛け普段とは違う場所で、食事をしたり散策して楽しんでもらえる機会を作っている。植物が好きな利用者は園芸店に買い物へ行き、楽しんでもらえるように支援している。	○ 希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。外出する時に家族にも参加してもらっている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絶縁状態であった妻に自筆の手紙を送ったことにより孫と共に面会に来られ、その後も頻繁に来られるようになった。その後も孫が両親と共に面会に来るようになり誕生日などには久しぶりに外出するなど手紙のやり取りからつながる関係を大切にしている。また希望により年賀状を出す支援も行う。遠方の家族に対しても、手紙・電話のやり取りを支援している。	○	文章のみならず写真なども同封し近状をお知らせする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑された時には、居室の椅子を確保したり居間の提供をしている。職員が間に入っての会話をしている。お茶とお菓子を出すことでゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	○	自室で過ごされることもあるが、居間で他者を交えて談話をされたりと自由に過ごしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かを常に考えながら日々関わりを行う。また、職員間で指摘しあえるような雰囲気作りにも心がけている。勉強会でも例に挙げて気付き確認し合っている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるように日中は玄関のカギを開け自由な暮らしを支援している。夜間は施錠することで特養との防火扉となっている。	○	行きたいところへ行く自由さと安心をもってもらえるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が自由に歩き回るのを見守り、安全確保のため行動を把握する。また、夜間の巡回や職員室のモニターで利用者の様子を把握するようにしている。	○	安全面とプライバシーの配慮、この二つを両立させる為に職員間でも連絡を密にし安全かつ不快な思いをさせない暮らしの支援をして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗浄液等の危険なものは鍵のかかるところに保管している。	○ 利用者の危険を防ぐ為に、日頃から職員間で声を掛け合い、意識の向上に努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書の検討や対策を職員同士で行い参加できなかったものに後日確認し確認印をすることで今後の防止に努めている。また、日々の申し送りやケース記録にも記入することで再確認を行っている。	○ 事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会で知識を学び実体験をすることで、より現場に対応できるようにしている。	○ 職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し消防署による協力のもと、定期的に消防避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。 震災時の初期対応の訓練も行った。	○ 近隣住民の協力も得られるよう働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。	○ 家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つ一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	一人ひとりの体調の変化に合わせた対応を行っており常に情報の共有に努めている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。確実に服薬できる様ひとりひとり方法を検討している。	○	配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないように声を掛け合っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬や浣腸だけに頼らないよう、ヨーグルトや寒天ゼリーなどその人に合った対応をしている。また排便を促せるよう時間等の調整もしている。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通を良くする食材なども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	居間に各自のうがい用コップを用意している。自力で難しい人には毎食後ケアを行っている。定期的に歯科医の往診がある。	○	定期的に歯科受診をしており、義歯の状態の把握、調整を行っている。また、歯科衛生士の職員がおり専門的な情報の共有、対応の指導をおこなってもらっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、本人必要量を理解した上1週間単位で状態が把握できるようにしている。	○	表は記入するだけにとどまらず有効活用する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。また、職員の健康管理にも努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い賞味期限の確認など基本を忠実に守るよう努力し衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。また食品衛生責任者の指導も受けている。	○	現状を維持する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ったりして、皆が安心して出入りできる空間を作っている。陵東館秀光苑の表示板は最高年齢の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	玄関は防火戸となっているが開放することでソファに座り日向ぼっこや談話をされる特養やショートステイの利用者の方もおられ、特養やショートステイの利用者の方々もご近所さんという捉え方をし、大切にお付き合いを重ねている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビはみていない時は消すようにしている。季節にあった植木を置いたり生活の中で育てる喜びや一緒に共感できる様に取り組んでいる。日常生活音、匂い、音楽、季節感を意識的に自然に取り入れている。詩を模写された方の作品を展示し、家族との会話が広がったり次に何かしたいという意欲につながっている。	○	利用者の方々がより良く過ごせる様に配慮し、どうすれば居心地よく過ごせるか日々心がけて取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルと椅子ソファをおいておりいつでもゆったりと過ごせる様に配慮して、一人ひとりの思い思いの居場所が出来ている。	○	廊下に置いてあるソファは朝起きて来られる方を待ち、就寝前は語らいの場となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドに赤ちゃんを寝かしている事により自室へ戻った時の安心感が赤ちゃんへの優しい言葉かけとなっている。家族（妻や孫）と一緒に撮った写真があることで家族とのつながりを実感されている。一人暮らしをしていた方で突然の環境の変化に戸惑わないように馴染みの椅子やテレビ台、家族の写真を居室に置くことで少しでも不安を取り除き安心して過ごせる様に心がけている。	○	その人らしい生活観のある雰囲気作りに努めて行きたい。個人のアルバムを作成している。日々の生活の中で写真を綴じていくことでその時の出来事を思い出し喜びになっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の方に「寒くないか」「暑くないか」を尋ねるようにして、その都度、温度調節を行うようにしている。また、台所を使用する時は必ず換気をしている。	○	人それぞれ体温調節が違うのでそれをふまえた上で常に温度には配慮していく。また、自然の風が通るように風のある日は窓を開ける様に心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ居間などに手すりを設置。	○	廊下や居間、トイレの手すりを活用し安全な歩行で自分でトイレや自室へ行けるよう見守っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作りやおやつ作りの場面では教えられることも多くヒントをもらいながら一緒に作っている。食事作りやあと片付け等の一連の動作を利用者の方々はお互いに協力しながら行っている。	○	尿意がわかりトイレに行きたいと望まれているが間に合わず失敗されていたが、ポータブルを設置したことで自分で排泄が出来る。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで植物を育てており利用者の方に水やりをやってもらう事で外の空気を吸ってもらっている。初夏にはアジサイの花が、今はアサガオのつるの伸び具合を楽しんでいる。	○	天気の良い日は外回りを歩いて外の空気を味わってもらおう。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症であっても残された力や潜在している力を大切に、それにより暮らしの喜びと自信をもてただけるよう努力している。それはお菓子作りや料理、カレンダー作りなどそれぞれの分野で活躍し、「自分でできる喜び」を感じ、誇りを持った生活ができるようにスタッフ全員が取り組んでいる。また、スタッフだけでなく家族の力もかけがえのない大切なものと捉え、関わりが途絶えない様手紙のやりとり等工夫したり、家族が来たことを忘れてしまう利用者には来苑時に一緒に撮った写真が安らぎを与えてくれる。ユニットの輪の中に入りにくい利用者がいれば職員が間に入り自然に馴染んでいける雰囲気作りに努めている。季節ごとに桜の花見や牡丹の花を見に出かけたりまた買い物や外食など外出するときはユニット全員が一緒に行動してお互いがお互いのことを少しでも理解しあえ、仲間意識や助け合う心が持てるようスタッフ一同が協力し、支え合っている。